

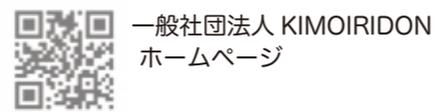
今後の開催については、下記の媒体でも情報発信していく予定です。  
ご興味のある方は、ぜひご登録・閲覧ください。



熊本市都市デザイン課  
Instagram



五感散歩  
Instagram



一般社団法人 KIMOIRIDON  
ホームページ



熊本市  
LINE \*



五感散歩  
Facebook \*\*

\* 熊本市 LINE は五福校区をご登録ください。

\*\* 五感散歩 Facebook は Instagram にリンクしています。



実験の様子を  
90秒の動画で  
公開しています。  
(熊本市公式 YouTube)

くまもと古町実証実験 五感散歩

## 150m のロジづかい

日時：2022年（令和4年）11月12日（土）12:00～17:00

場所：熊本市中央区中唐人町～魚屋町2丁目界隈

主催：熊本市、一般社団法人 KIMOIRIDON、熊本大学田中智之研究室、独立行政法人都市再生機構九州支社

協力（順不同）：大生ファミリー株式会社、株式会社コウナン・レクセル、株式会社はかりや、五福小 PTA、一新校区保護者有志会、新町古町町屋研究会、株式会社キッシュコーポレーション、熊本大学教育学部有志、熊本大学学生有志、株式会社 RAMET、藤丸邸、藤丸ビル、株式会社国府不動産、サンコー・コミュニケーションズ株式会社、熊本市立五福小学校、合名会社早川倉庫、有限会社マルエス商事、有限会社むろや、橋本醤油株式会社、株式会社黒瀬商店、宮本建設株式会社、五福消防団、熊本市西消防署、熊本市立図書館、空き地・空き家研究会

# 五感散歩

くまもと古町実証実験 五感散歩 150m のロジづかい report



発行 ○ 2023年1月 / 熊本市、一般社団法人 KIMOIRIDON、熊本大学田中智之研究室、独立行政法人都市再生機構九州支社

お問合せ先 ○ 熊本市都市デザイン課 電話:096-328-2508 / 一般社団法人 KIMOIRIDON E-mail:contact@kimoiridon.com

2022年（令和4年）11月12日（土）

熊本城城下町の一角をなす古町地区には、清正公さん築城以来の町名や一町一寺の町割など、歴史的な風情が残っており、一方で熊本地震後、町屋が半減し、駐車場が増加しています。このような状況と向き合いながら、古町としての個性を維持・復興させることで、地域の生活を豊かにし、商売が繁盛するようなまちづくりを目指したいと思っています。

ただし、地域が求める「賑わい」や「豊かさ」とはどのようなものかについては、実験を重ねながら少しずつ住民の皆さま同士で共有していくプロセスを踏んでいきたいと考えています。

また、人口減少や少子高齢社会、with コロナに対応するため、私たちは新たな「人と人のつながり」のあり方を模索しなければならない新しい時代への転換期にあります。

そこで、今回は、一町一寺の寺の部分にあたる不動院跡地を含む延長約 150m のロジを対象に、複数の民間駐車場の地権者様・管理者様・契約者様にご協力をいただき、普段は通り抜けできない街区内の私有地を一時的に通り抜け・滞留可能な空間として、地域住民の皆さまや来街いただいた皆さまに体験していただく試みにチャレンジしました。



この実証実験は、古町における土地利用等の問題点に対し、一町一寺という歴史的特性と『ロジ・リンク・シティ』という構想を活

かしながら、地域課題の解決を図るとともに、将来的な豊かな暮らしの実現に向けて、少しずつ取り組みを重ねていくものです。

## 「古町」について

### ①一町一寺の町割

正方形の街区の中央に寺が配置され、その周辺に町屋が配置された江戸時代からの町割が残っています。ある時代までは、お寺を通り抜ける習慣もあったようです。

### ②子どもの遊び場

五福小学校区内の街区公園は鍛冶屋町公園の1箇所のみで、かつ都市計画上の標準面積より狭く、防犯上の問題も抱えています。子ども達の遊び場が不足していることは、地域の長年の課題となっています。

### ③熊本地震の影響

町屋は新町古町地区全体で約 360 件から約 180 件に半減し\*、土地がまとまったところはワンルームマンションへ、狭い敷地等では駐車場への転用がみられます。  
(\* 熊本市調べ)

## 「ロジ」の可能性について

古町の「町」は、通り（オモテ）が軸となっています。それに対し街区の内側（ウラ）にある空間を広義的に「ロジ」と呼ぶことにしました。

### ①道路の現状

一辺が 120m という町割は、現代人がまちを歩き周るにはやや長く、また、歩くための公的な空間が相対的に少ないことを意味します。

### ②「ロジ・リンク・シティ」構想

熊本大学大学院田中智之教授による「オモテの機能をロジに付加しながら、桜町から熊本駅周辺まで歴史や緑でつなぐ」提案です。

### ③ウォーカブルなまちへ

全国的に、これまでの車を中心としたまちから、人を中心としたまちへの転換が図られています。古町地区の一部は、熊本市のウォーカブル区域に含まれています。

## 今回の実証実験は、

2022 年 5 月に実施したプレ実験で明らかになった課題を踏まえ、「ロジを楽しむ・使う」ことを目的として、

(1) 子ども達のための「遊び場」など

(2) ロジの「居心地の良さ」「設え（しつらえ）」

を実験的に提供し、滞在者の楽しみ方や過ごし方を検証してみることにしました。

地域住民の皆さまのより豊かな暮らしを実現したいとの思いで、単純な集客イベントとは一線を画し、

(1) 子どもの「遊び場」については、

五福小学校・一新小学校の PTA 等によるストラックアウト大会、熊本大学教育学部有志によるミニ文化祭（音楽・工作イベント）等に取り組みました。

また、「遊び場」とは別に、町の歴史性に関わるプチ蚤の市も開催しました。

(2) 「居心地の良さ」については、

テーブル・椅子・人工芝・テント・充電設備等を配置するほか緑のプランターを設置するなど、ロジへの入りやすさや居心地の良さを創出を試みました。

また、休憩スペースとして、カフェでくつろいだり、おしゃべりをしたり落ちつける場所の提案にも努めました。







## ストラックアウト

一新校区保護者有志会と五福小PTAの合同開催。たくさんの子ども達が参加し、一新小の圧勝に、次回の対決を誓っていました。  
上記以外の時間帯は、学生さんが見守りながら自由に遊んでいました。



## ミニ文化祭 (ものづくり)

熊本大学教育学部有志によるものづくりイベント。クリスマスカードは絵を描いたり折り紙を貼ったり。シャカシャカキーホルダーは好きな小物を詰めました。お姉さん(学生さん)とのおしゃべりも楽しく、仲良しになりました。



## ミニ文化祭 (音楽イベント)

熊本大学教育学部有志による音楽イベント。ハンドベルやトーンチャイムなどを使いながら電子ピアノの伴奏に合わせて音を奏でてみました。  
自由に楽器を選び、みんなと音を合わせながら楽しい時間を過ごしました。



## ミニ文化祭 (釣りゲーム)

熊本大学教育学部有志による釣りゲーム。お友達同士でも、ひとりでも参加ができたので、何度も挑戦して釣り方が上手になった子もいたようです。  
大人気だったので、時々建築系の学生さんもお手伝いに入るほどでした。



## プチ蚤の市

新町古町町屋研究会による蚤の市。町屋等で不要になった家財等を引き受け、流通させることで利活用を促す活動です。  
歴史的建造物に興味を持っていただくとともに、収益の一部は町屋の保存活動や移築等に使われています。



## 地域のPR 動画放映

五福小6年生が総合学習の一環で制作した地域のPR動画を会場内2箇所のゲートで放映しました。  
また2021年春の実験で制作した古町PRのCM14本も同時放映。これは熊本城ホールでも上映されていたものです。



## 絵本・児童書コーナー

今回、熊本市立図書館から絵本・児童書を寄贈いただきました。  
限られた冊数でしたが、小さなお子さんや親子の皆さんに、人工芝の上でゆっくり楽しんでいただきました。今後も絵本の企画は続けていきたいところです。



## キッシュカフェ

駐車場内に常設されているシルバーのエアストリームが印象的なカフェです。当日は特別メニューのFOODも。  
足元の石畳は、新町古町町屋研究会が保存活動の一環で河原町電停改修時に譲り受けた自然石を再利用しています。



## 緑化

株式会社RAMETさんのご厚意により、プランター等で緑化いただき、殺風景な風景が潤いのある空間となりました。  
緑化の効果は大きく、プランターのような仮設的な緑化方法も積極的に導入していきたいところです。



## 人工芝

就学前のお子様や低学年の子ども達にも安心して滞在いただけるように、人工芝を敷いてみました。  
絵本・児童書コーナーで本を読んだり、親子でくつろいだり、好評をいただきました。「もっと広くても」との声も。



## フリースペース

長机を並べ、プランターの緑を配置しました。  
子ども同士、家族連れ、孫とおばあちゃん、お母さんグループなど、様々な方にご利用いただきました。予期せぬ夏日で、日陰不足をご指摘いただきました。



## 休憩コーナー・井戸端コーナー

休憩コーナーには、壁面沿いにベンチやイスを、井戸端コーナーには机やテントも設置しました。  
子守りや休憩のほか、久しぶりに会った方と話していただいたり、アンケート記入にも使っていただきました。



## インフォメーション

木質・キャンパス地のテントを使用しました。  
「お洒落感が良い」とのご意見もいただきました。今後も、可能な限り、少しずつでも景観的に配慮した家具や備品を投入する方法を考えていきます。



## 仮設階段

大生ファミリー株式会社さんの協力により、フェンスを一時的に撤去し、通り抜けのための仮設階段を設置しました。  
バリアフリーの観点や安全性をご指摘いただく一方で、「自転車を通り抜けないので安心」とのご意見もありました。



## 自転車・ベビーカー置き場

魚屋町側の会場入口付近に自転車置き場を指定しました。ほぼ子ども達の利用で、ここに自転車をきちんと停めて、会場内に入ってきてくれました。  
今後は、ベビーカー等のバリアフリー対策や移動のお手伝いも検討します。

## 電源

○五福消防団のバッテリー&ソーラーパネルで充電コーナーに供給しました。  
○秤屋さんからミニ文化祭の電子ピアノ等に供給しました。  
○藤丸ビルさんと大生ファミリーさんから各ゲートの動画放映に供給しました。

## トイレ

熊本市西消防署のご厚意により、お客様・スタッフが利用するトイレをお借りしました。  
インフォメーションでもご案内していましたが、この取り組みを続ける上で、トイレの確保とご案内は今後の課題です。

## アンケート調査結果

- ・約300人の方にご来場いただきました。約6割が魚屋町側から、約4割が中唐人町側からのご来場でした。
- ・そのうち、100人余りの方からアンケートのご回答をいただきました。

**男女比**：女性65%、男性35%

**年代**：小学生13%、大学生8%、  
学生以外の20代6%、30代15%、40代14%、  
50代17%、60代15%、70代以上12%

**居住地**：五福校区32%、一新校区7%、その他市内45%  
その他県内14%、県外2%

**来街手段**：徒歩41%、車38%、自転車12%、  
市電4%、JR4%、バス1%

**来街目的**：ロジイベント56%、その他23%、  
近くの店19%（ピュアリア8%含む）、通勤2%

**情報手段**：通りがかり34%、SNS・HP20%、その他17%、  
小学校15%、口コミ11%、チラシ2%、回覧板1%

**入りやすかったか?**：はい91% - いいえ9%

**続けてほしいか?**：はい92% - どちらでも8% - いいえ0%

### 調査方法

- ・アンケート調査員3人が来場者にアンケート票を配布
- ・来場者に会場内で記入いただき、その場で回収箱にて回収

### ●よかったこと

コンテンツ（プチ蚤の市、ミニ文化祭、ストラックアウト、小学生の動画、カフェ）に多くの好評価をいただきました。

また、子ども達が遊ぶ姿・楽しむ姿を見られて良かったとの意見が多く、会話ができたこと、交流ができたことも合わせて、楽しく笑顔で過ごせたとの評価をいただきました。

その他、普段は通行できないロジに入れたことや、古町の町並み・歴史等を感じられたとの声もありました。



### ●気になったこと

「安全性」について、仮設階段の段差、空き家、人の多さ、砂利の路面等にご意見がありました。また、ボール遊びをする場合の安全の確保にもご指摘をいただいています。

「空間の設え（しつらえ）」について、一部が寂しい雰囲気だったとのご指摘や、もっと一体的に・魅力的にできそう、もっとロジ感がほしいというご提案もありました。



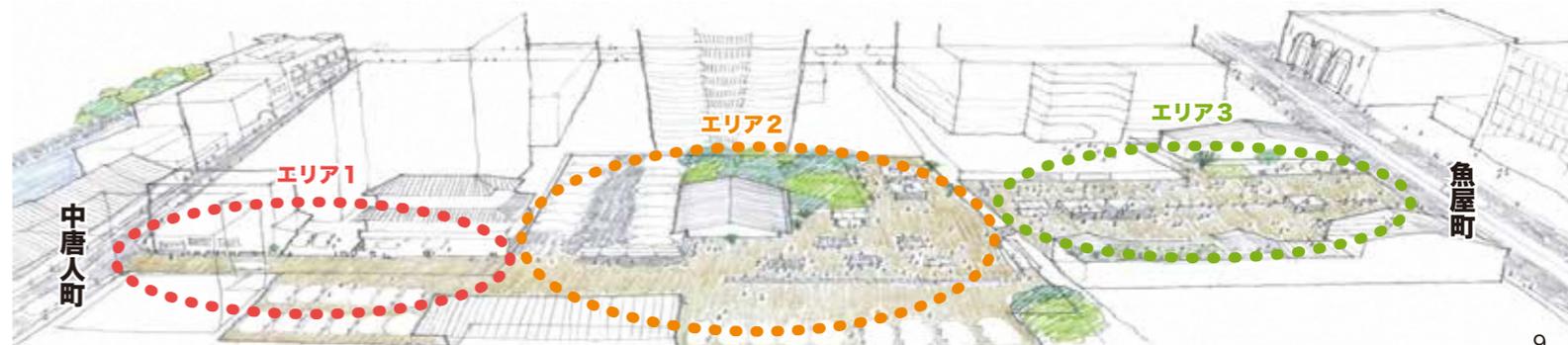
### ●ロジでしてみたいこと

ボール遊び、鬼ごっこ、走り回るなどの「遊び」や、縁日や夜市等の「お祭り」を求める声が多くありました。

また、大人のおしゃべりやアルコール系の大人向けイベント、未就学児イベントや子ども発案の企画など子ども向けイベント、若者向けのスペース、地域の方との交流スペースなどへのご要望がありました。総じて多様な年代が楽しめるイベント・スペースが欲しいというニュアンスが含まれていたように思われます。

その他、テーマ性のある「マルシェ・マーケット」や、屋台村、カフェ等の「飲食」スペースを求める意見がありました。

また、いわゆるイベントとしての利用ではなく、休憩、読書、散歩、お弁当、お昼寝など「日常的な利用」を望む声がありました。「ロジがつながって、もっと長く歩きたい」とのご意見もありました。



### ●今後に向けて（自由意見）

「のんびりできて良かった」「通りすがりでも受け入れられる雰囲気」が嬉しかった」という肯定的な評価や、「もっと続けてほしい」「また行きたい」「このようなイベントは有り難い」など継続を希望する声を多くいただきました。

一方で、コンテンツの内容や空間の設え、運営方法への工夫を求めるとご意見も頂戴しました。

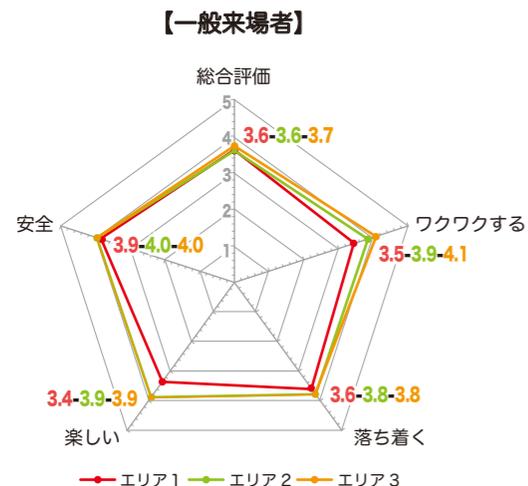
・「老若男女ゆったりできる場所が少ない」「段差が怖い」「砂利の路面が危ない」「もっと広報するといいかも」「もう少し地域との連携があっても良い」など

また、今回の取り組みに対するコンセプトに理解を示していただけるご意見がある一方で、何をしようとしているかわかりにくいとのご指摘もありました。

## ●各エリアの評価

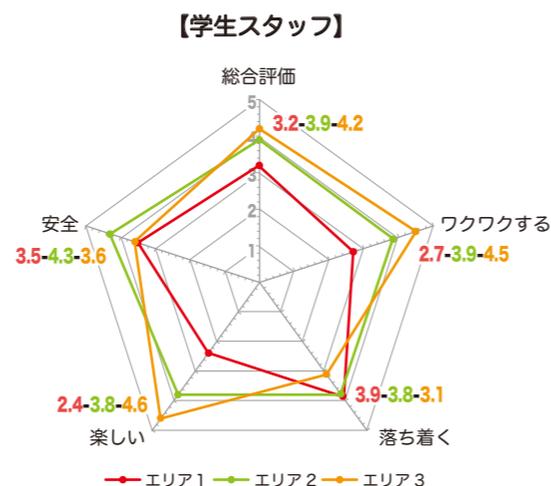
【一般来場者】の評価は、各エリア・各指標で大きな差異はみられませんが、エリア1は道路空間ということもあり「ワクワクする」「楽しい」の評価がやや低くなっています。

「落ち着く」については、エリア1と3で、落ち着く方と落ち着かない方で意見の差異がみられました。今後は、どのような環境が「落ち着く」のかを把握していく必要があると思われます。あるいは「落ち着き」と「賑わい」をどのようにバランスさせるかについても検討していく必要があると思われます。



【学生スタッフ（20代前半）】の評価は、【一般来場者】と比べて評価がハッキリと分かれています。特にエリア3の「ワクワクする」「楽しい」が高い評価となっています。同エリアで一般来場者は「落ち着く」が3.8ポイントなのに対し、学生スタッフは3.1ポイントと低くなっており、若い世代には落ち着くというより賑わいの印象が強かったようです。

「楽しさ」については、エリア1は中間値の2.5よりも低い最低値となっており、エリア3は最高値の4.6となっています。



## 行動調査結果

主催者側のスタッフが付き添って運営した催事（ブチ蚤の市、ミニ文化祭、ストラックアウト、小学生の動画、カフェ）以外に、どのような行動がみられたかを調査しました。

人と人の交流のきっかけとなる機会を生み出したいという狙いに対して「会話」の発生状況をみると15時に最も多く、全体で19人程度の方が会話をされていました。

また、ロジ使いの1つの狙いとして「休憩」スペースを提供することがあり、14～15時に大きく増えており20～22人程度の方が休憩されていました。

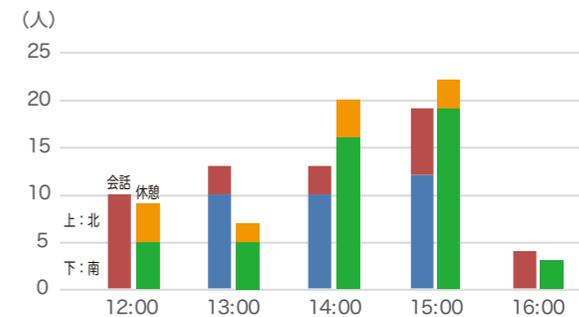
エリア3（南）でみると、15時に「会話」もしくは「休憩」をされていた方が、合わせて最大31人いらっしゃいました。

「遊び」については、エリア3で自然と鬼ごっこが始まったり、また、エリア2では、井戸端コーナーのスペースを一部空けたところ、ドッジボールが始まりました。このように自由に使えるスペースの可能性についても確認することができました。

### 調査方法

- ・行動調査員2人が各時間の時点で会場内を記録
- ・1時点における行動内容を定期的にかつ行動の種類別に集計（行動内容は主催者側が準備した催事への参加を除く）

### 「会話」・「休憩」をしていた人



	会話	休憩
エリア1・2 ……北	■	■
エリア3 ……南	■	■



アンケート記入も  
もはや遊びの一部に



エリア2でドッジボールが始まりました

## 「遊び場」について

●現状・計画等について ○実証実験の評価・今後に向けて

### ●遊ぶ場所がない！

・公園等の1人当たり面積 (㎡/人)

街区公園：五福校区 0.48\* - 熊本市 1.37\*\*

緑地：五福校区 0.13\* - 熊本市 1.13\*\*

五福校区の街区公園は鍛冶屋町公園のみ、緑地は小沢町緑地のみで、箇所数・面積とも十分ではありません。

(\*一社KIMOIRIDON調べ \*\*熊本市「都市公園」総括表)

### ●コロナ禍の現状

・コロナ禍でのステイホームにより、子ども達は友達との交流の機会が減少しており、学校外で思うように遊べていないようです。

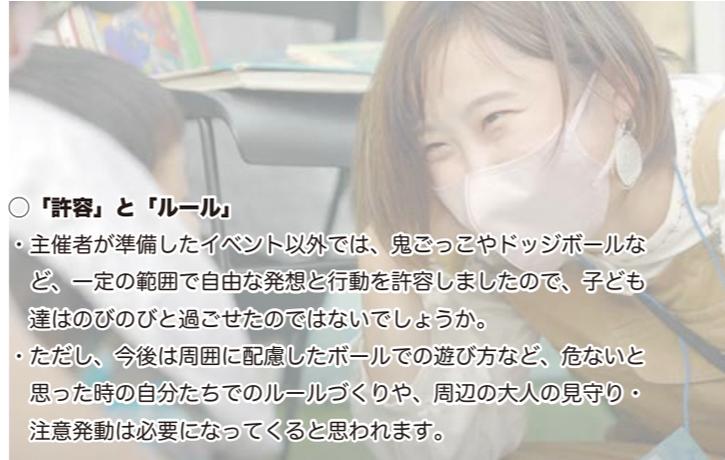
### ○子どもの「笑顔」と「集中」

・子ども達は笑顔で楽しい時間を過ごせました。色々な遊びを繰り返し、滞留時間も長かったようです。「また来たい」との声もたくさんありました。

・遊びの中で、集中する作業（カードづくり、釣りゲームのスキルアップ、音を奏でるなど）や、真剣な対決からの喜びや悔しさ（ストラックアウト）も経験できたようです。

### ○ふれあい・出会い

・他学年、他校、地域の方との交流のほか、学生のお兄さん・お姉さんと遊んだり話を聞いてもらったりと喜びや安心感に包まれ、仲良く遊ぶという協調的な行動が生まれていました。子ども達もストレスから開放されたのかもしれない！



### ○「許容」と「ルール」

・主催者が準備したイベント以外では、鬼ごっこやドッジボールなど、一定の範囲で自由な発想と行動を許容しましたので、子ども達はのびのびと過ごせたのではないのでしょうか。

・ただし、今後は周囲に配慮したボールでの遊び方など、危ないと思った時の自分たちでのルールづくりや、周辺の大人の見守り・注意発動は必要になってくると考えられます。

### ○「withコロナ」と「交流」

・「withコロナ」への対応が求められるなかで、かつ遊び場が少ないという地域課題からの要請に対して、今回の取り組みを通して、「屋外で過ごし、人と人が交流する」一つの方策として、一定の可能性を見出せたのではないかと思います。

### ○「遊び」とは...

・子ども達にとっての遊びとは何か？ かつて自分達の遊びの中から、あるいは地域の大人から学んでいたことは何だろうか？ 新しい時代に対応したコミュニティのあり方を目指すにあたり、子どもを育てる社会環境づくりは必須項目だと考えられます。

・アンケート結果から、実は、大人にもゆっくり過ごしたり、楽しく過ごしたり、あるいは人と人との交流を通して安心できる関係性を築いたり、広い意味での「遊び」が必要なのかもしれません！ 今後も幅広い「遊び」のあり方について考えていきたいと思えます。

## 「居心地の良さ」について

●現状・計画等について ○実証実験の評価・今後に向けて

### ●空間の設え（しつらえ）

・今回は、9つのロジ（①ゲート、②壁、③角、④段差、⑤青空、⑥日陰、⑦溜り、⑧緑、⑨芝）を想定し、様々な設え（しつらえ）を試みました。

・会場内に机を長く並べることで、ロジの繋がりがや賑わいの連続性を演出できないかと考えました。

・机とイスを配置することで滞留を促す＝「居てもいいんだ」という雰囲気を作れないかと考えました。

### ○椅子・テーブル、タープテント

・椅子・テーブルを多く並べたことが、「休憩」や「会話」が生まれる一つのきっかけになっていたように思われます。

・逆に、多くの方にご来場いただいたこともあり、溜りとなるような余裕のあるスペースの確保ができなかった側面も確認できました。

### ○心理的な「居心地の良さ」「入りやすさ」

・概ね「落ち着いた」との評価をいただきました。当日は寒さ対策を検討していましたが、一転夏日となりましたので「日陰」へのご要望もたくさんいただきました。

・「通りすがりでも入りやすかった」とのご意見もあり、入場しやすい雰囲気づくりに一定の成果が得られました。

・今回は賑わい（人の集まり）があったことや、ご家族や友達同士でのご来場が、入りやすさにもつながったと思われます。



### ●緑化の効果

・街区中央の不動院跡に大きな木があり、その緑と会場内に設置したプランターの緑が重なるように見えたことで、手前の電車通りから街区の奥まで緑のつながりが演出できました。

・また、テーブルの横に置かれた緑は、緑の気持ちよさのほか、適度に他者の視線を遮ることでの安心感・居やすさ、空間のおしゃれ感等から居心地の良さに貢献していたように思われます。

### ○駐車場の一時利用と快適な環境づくり

・通常は駐車場として利用されている場所を、契約者様等のご協力により一般に開放する実験でしたので、今後もしばらくは一時的・部分的な利用が想定されます。

・ハード面では常設のような環境整備が困難な側面もありますが、「砂利面の安全性」「階段の利便性」というご意見にも対策を講じていきたいと思えます。

・また、設備やファニチャー（家具等）も仮設となりますので、今後は、季節、時間帯、開催回数等に合わせて居心地の良い環境を作るための工夫や対策の余地があると思われます。

・さらに、「もっとロジ感を」「古いまちを感じる憩いの場を」「老若男女で交流できる場所を」「住民のためのフリースペースを」「子と一緒に親も楽しめる場を」というご要望もありましたので、空間の作り方にも工夫を凝らしていきたいと思えます。

## 運営について

●現状・計画等について ○実証実験の評価・今後に向けて

### ●様々な方々にご協力いただきました

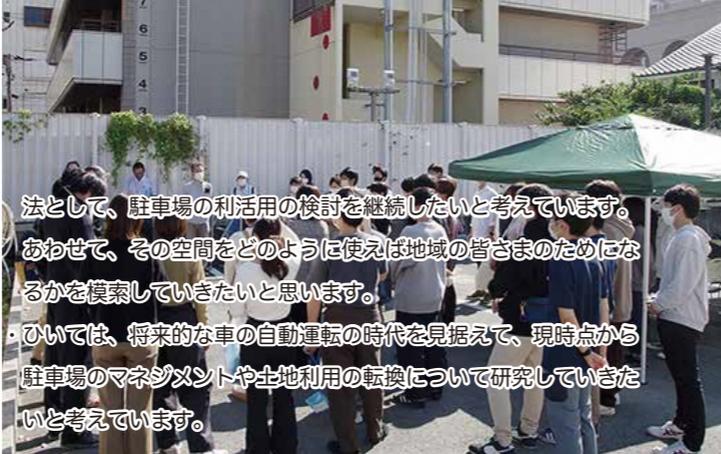
- ・25の企業・団体の皆さまに、会場の確保・調整、備品の準備、コンテンツの運営等でご協力いただきました。
- ・また、運営スタッフとして熊本大学の有志約30名の学生さんにご協力いただきました。

### ○大学生の参加意義

- ・学生さんには、単なる運営スタッフとしてだけでなく、各専門分野の立場から、地域の現場を体験することも兼ねて参加いただきました。それぞれ建築、都市計画、地域計画、教育（家庭科・特別支援）などの視点に立ち刺激を受けてもらえたようです。
- ・また、地域としては、子ども達がお兄さんお姉さん（学生さん）に仲良くしていただき、話し相手・相談相手になっていただきました。学生さんとのふれあいが、子ども達の心のケアにも繋がっている場面も確認できました。そういう意味では、学生さんには、さらに積極的に交流してもらおう方法を考えることが有効だと思われれます。

### ○駐車場マネジメント

- ・校区内で駐車場が増加するなか、一時的にでも空間を生み出す方



法として、駐車場の利活用の検討を継続したいと考えています。あわせて、その空間をどのように使えば地域の皆さまのためになるかを模索していきたいと思います。ひいては、将来的な車の自動運転の時代を見据えて、現時点から駐車場のマネジメントや土地利用の転換について研究していきたいと考えています。

### ○ロジの周辺関係者で支える発想

- ・海外では、特定のエリアでまちづくりのための負担をする仕組みがあり、日本ではそれを応用する形の運用例があります。
- ・ロジ実験の場合は、日常的な取り組みとして運営の負担を軽くした上で、ロジ周辺の企業や関係機関等で支え合いながら運営していくイメージを実現できないか模索する余地がありそうです。

### ○地域との連携も

- ・今回は、初めての試みでもあり、まずは各種関係者との体制づくりを固めることに時間を要しました。
- ・今後は、定期的な場の提供に向けて、地域の協体制の検討、地域団体や賛同いただける住民の方などとの連携を図っていく方策を検討していきたいと思います。

## これから

### 今後の取り組みに向けて

#### ○「継続性」の追求

- ・概ね楽しく過ごしていただいたなかで、何よりも「子ども達の笑顔が良かった」との声をたくさんいただき、「続けてほしい」とのアンケート結果からも、今回の取り組みに一定のご支持をいただけたのではないかと思います。引き続き、継続的に取り組むことにチャレンジしていきたいと思います。

#### ○「遊び場」の追求

- ・今後も地域課題である「遊び場」の提供を軸に、他のコンテンツを付加していくことも1つの方法です。1箇所で様々なコンテンツを少しずつ集めるか、コンテンツごとに地域の複数箇所に展開していくか、いくつかのプロセスが考えられそうです。

#### ○「多様性」の追求

- ・今回は「子どもの遊び場」をメインテーマの一つとしましたが、今後は、子どもだけに限らず、誰もが思い思いに過ごしても大丈夫な「多様性」を許容できる環境（広義での遊び場）を考えていきたいです。ひいては「交流」を生み出すきっかけづくりをしたいところです。



### ○「定期性」「日常性」の追求

- ・今回は、地域の皆さまに受け入れていただけるかの確認も含めてやや大きな取り組みとしてみましたが、今後は「定期的に」場を提供することを目指したいと考えていますので、日常的な運営方法も追求していきたいです。

## 今後の課題

- ・運営を日常化させるためには、前述の仕組みづくりや運営体制のほか、初期での備品（椅子や机等）の調達方法も課題の一つです。
- ・アンケートでもご指摘のありました広報については、今回、回覧板の効果が小さいことがわかりましたので、より効果的な周知方法についても検討したいと思います。
- ・最後に、社会環境が大きく変化している現在、古町では様々な取り組みが実施・計画されています。そのような中、古町らしさを探求し、エリアの価値を高め豊かな暮らしを実現するためには、今後も実証実験を繰り返しながら、多様な都市活動を促すとともに、様々な取り組みがバラバラにならないようにするために、古町全体の目指すべき将来像や方向性を示す「地域ビジョン」を地域の皆さまで共有していくことが望まれます。